

じゅしゅう

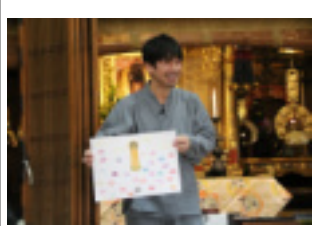
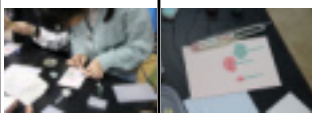
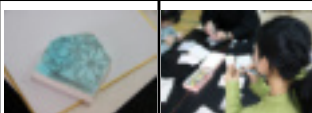
二月十六日、第五回「仏教文化講演会」を開催いたしました。難いタイトルですが、思いつくまま様々な企画を考えております。この度は新潟より麻田弘潤先生をお招きし、「消しゴムはんこ」のワークショップでした。実際に消しゴムはんこを作りながら、仏さまのお話を聞かせてもらえる、何とも贅沢な時間をいただきました。先生は平成十六年の新潟県中越地震の際に本堂が避難所になった経験から、災害ボランティアとして何かできることはないかと模索されてきました。僧侶として悲しみに寄り添いたい、けれ

第5回 浄覚寺 仏教文化講演会

ど始めて会った人に心を聞いてもらうことはやはり難しかったそうです。そんな時にたまたま消しゴムはんこを皆で作る機会があり、あつという間に距離が近くなるのを感じたことをきっかけに、それからは仏法を伝えるときに心の距離を近づけるためのツールとして、消しゴムはんこ作りをしていると教えていただきました。

今回、皆で挑戦したのは蓮です。花、葉、茎、蕾をガイド線に沿って削っていきます。丁寧に作り方を教えていただけですが、なかなか見本のようににはできないものです。いびつな削り方になりましたが、それはそれで味のある蓮のはんこが完成しました。

個別の作品を作り終えた後は、少し大きな紙に、先生が阿弥陀さまのはんこを押してくれて、その周りにそれぞれの蓮の花を持ち寄りて押していただきました。その時にしていただいたお話は、私たちは見本があればその通りに作りたくなります。その時は合ってるか間違っているか、上手いか下手かと比べてしまいます。下書きの線はあくまでガイドで、好きなように彫ってもらっていいですよと聞くのと、周りを参考にして、そ



れぞれの形が正解になっていきます。『仏説阿弥陀経』という経典の中で、極楽浄土の様子を描写したところがあります。『地中蓮華、大如車輪(池の中の蓮華は大きな車輪のようだ)』とあります。そして、その蓮華たちは、色とりどりで形も様々ですが、それぞれが輝いて咲いています。私たちも比較される社会の中で生活はしていますが、そのままの自分を認めてもらう阿弥陀さまの願いに出会うときに、安心して生活できる支えをいただきます。

第71号
(通算411号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

・3月19日(水)
10時~11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・3月25日(火)
19時~20時半
・参加費1000円

地中蓮華

大如車輪

青色青光

黄色黄光

赤色赤光

白色白光

微妙香潔

『仏説阿弥陀経』



御文章に聞く(第64回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていきなさいと思ひます。先月は文字の読めない讃岐の庄松さんとのエピソードをご紹介します。

一切の聖教章(五帖第九通)これによりて・南無とたのむ衆生を・阿弥陀仏のたすけまします道理なるがゆえに、南無阿弥陀仏の六字のすがたは・すなわちわれら一切衆生の平等にたすかりつる・すがたなりとしらるるなり、されば、他力の信心をうるといふも・これしかしなから・南無阿弥陀仏の六字のころなり、このゆえに・一切の聖教といふも、ただ、南無阿弥陀仏の六字を信ぜしめんがためなりと・いうころなりと、おもふべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今度も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきなさいと思ひます。先月は文字の読めない讃岐の庄松さんとのエピソードをご紹介します。

『蓮如上人御一代記聞書』には、「蓮如上人仰せられ候ふ。聖教よみの聖教よまずあり、聖教よまずの聖教よみあり。一文字をもしらねども、人に聖教をよませ聴聞させて信をとらすは、聖教よまずの聖教よみなり。聖教をばよめども、真実によみもせず法義もなきは、聖教よみの聖教よまずなりと仰せられ候ふ。」と伝えられています。現代では仏教関係の出版物も容易に入手することが出来ます。けれど『お経』の文字が読めて、仏教用語が理解できても、それで必ずしも仏法が聴聞できているとは限りません。仏さまの深甚の大悲を受けとめ、それらを自らの大切な依りどころとしていなければ、「聖教よみの聖教よまずあり」といわねばなりません。床松さんは『お経』の一字、一字に阿弥陀さまの大悲を感じつつ生きておられたのでしょうか。

仏教語辞典



時宗の一遍の一行が長野県の善光寺に向かう途中、念仏をしながら踊ったことが始まりとされる。阿弥陀如来に救われる喜びを全身で表現している。踊念仏の輪には僧侶だけでなく、武士や庶民など多様な人々が加わっていたとのこと。

踊念仏

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。消しゴムはんこ作家の麻田先生は同級生でもあり、ずっとお招きしたいと思っておりました。念願がようやく叶い嬉しかったです。当日はたくさんの方にご参加をいただきました。またいつかお呼びしたいと思っています。有難うございました。先生の最新刊が四月八日に出版されるそうです。ぜひお買い求めください。また、皆さんの蓮華が集まってできた作品を、額に入れて本堂に飾っております。またご覧くださいませ。(釋法道)



浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。デジタル「じゅこう」をお届けします。



4月

・四月十二日(土) 十四時・十九時 十三日(日) 十四時のみ 報恩講法要 法話 天岸淨圓先生

行事案内

日時・三月二十日(祝) 十四時より 行事・春季彼岸会 場所・長原浄覚寺 講師・四夷法頭先生(兵庫) 彼岸とはお浄土のことです。「お浄土があつて良かった。」私にとって大切なことをお聴聞させていただきました。(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

